

# 御挨拶

国際日本文化研究センター所長

河合隼雄（実行委員会委員長）

本論文集は「日本研究・京都会議」として、1994年10月17日より22日まで、6日間にわたって行われた研究会議における研究者の発表、および公開講演会の講演、の記録を編集したものです。

国際日本文化研究センターは、1987年5月に発足以来、日本研究の発展のため、努力を続けてきましたが、初代の梅原猛所長の発案をうけ、所員一同が、日本研究を国際的に意義あらしめるための事業として、国際的な研究集会の開催を企画し、幸いにも国際交流基金との共催で、今回の研究集会を開くことができました。

海外における日本研究および日本語教育は、近年特に著しい発展を見せています。私どもが海外に行きましても、それを実感することが多く、従来の伝統的な、いわゆる日本的と考えられる文学、芸術への関心をこえて、日本の現代における政治、経済、理工学などの実に広い分野にわたって関心が向けられている事実を目を見晴らされる思いがします。また、上手な日本語で話かけられることも多く、日本語教育が広く、かつ高度に行われていることに感心させられます。

このような実状を踏まえ、内外の日本研究者が集って、日頃の研究成果を問うと共に、研究者相互の交流を深めるのに、少しでも役立てばと考へ、この会を催しました。その結果、予想をこえる多くの国々から、多くの研究者の参加を見たことは、非常に有難く嬉しいことでありました。文献を通じては互いによく知っている研究者の方々が、この場で直接に会い、話し合いができてよかったと言われ、これを企画した者として有難く思いました。

研究発表は、分科会の数が66にもなっている事実に反映されているように、極めて多岐にわたっています。国外からの視点は、日本人にとっては思いがけない新しいものであったりして、日本文化あるいは日本社会などの全体が新しい角度から照射される、という感じがありました。この論文集が今後の日本研究や日本語教育の発展のため、多くのヒントを与えるものであることを確信しております。そして、出来るだけ多くの研究者に利用していただきたいと願っています。

今回の会議において、世界の各国で日本語は話さないが、日本に重大な関心を持っている研究者が多く居られることを知りました。そのような方たちとの研究交流をすることも、本センターの今後の課題と感じた次第です。

本会議の御後援をいただいた京都府、京都市、日本文化研究交流財団、東芝国際交流財団、そして、会議に参加された内外の研究者、会議の運営のために力をつくして下さいの方々に対して、心から感謝申し上げます。